

豊庄だより

福岡市早良区南庄2-26-13

社会福祉法人林生会豊庄保育園

副園長 西尾 舜

第769号 2023年9月11日



9月の誕生会では園長先生からの話として、クイズを出しました。1問目は「3月3日は何の日でしょう?」。するとひまわりさんから大きな声で「6!」と返ってきました。私の声がちゃんと届かなかったからなのか、作ってきたフリップが小さくて見えなかったからなのか、足し算をするひまわり組さんが見られました。即答だったのでそれはそれで素晴らしいことなんですけどね。もしかしたら最近クラスで足し算の話をしていたのかも。それはさておき、「残念! 答えはひな祭りでした。」と言うと理解したのか2問目からはスムーズでした。

「5月5日は一?」「子どもの日!」、「7月7日は一?」「七夕!」。そして4問目、ここが肝でした。「明日、9月9日は一?」「…」。やはり返答は返ってきませんでした。「お月見!」「満月!」「十五夜!」と9月と言えば月なので、月に関して答えてくれる子たちはいました。しかし残念ながら正解ではありません。「じゃあ正解教えるよー、重陽の節句です!」「……(???)」想定通りのリアクションでした。「あんまり聞いたことないよねー」と声かけたあとで重陽の節句の説明をしていきました。

「今回出したクイズの日付は全部節句と呼ばれてます。節句と言うのは『季節が変わるころに悪いことが起きやすいから悪いことを吹き飛ばすためにお祭りをしよう』というものなんだよー」と伝えました。続けて「クイズの問題に全部イラストが描いてあって、これが何の節句なのか表してるよ。ひな祭りは『ももの節句』、子どもの日は『端午(菖蒲:しょうぶ)の節句』、七夕は『笹竹の節句』、そして重陽の節句は別名『菊の節句』そして『栗の節句』と言われています」と説明しました。そして菊の花を取り出してみんなに見せました! 取り出すときにとってもいい匂いがしていました。お話の後で、事務室前と階段前に可愛い花瓶立てに入れて飾りました。みんな入れ物の犬さんに興味津々でしたが…何人かは臭いを嗅いでくれてるかなあとと思います。



では何故、重陽の節句はマイナーなものになってしまったのでしょうか? その原因の一つは「暦が新暦にかわったのに行事の日付はそのままだとせいで」です。これにより暦上の行事と実際の季節に一か月近くのずれが生じました。そして菊や栗の最盛期とずれるようになってしまったというのがあります。暦のずれによって困る行事はいくつかあり、①七草がゆ→正月ごろにはまだ全種類は生えそろういません。ハウス栽培でなんとかできたりもしますが。②七夕→梅雨! 台風! 本当はその切れ間の時期だったんですけどね。といった具合です。化学技術によってカバーしていますがやはりこの季節のずれは人々の心に違和感を残したのでしょうか。そしてもう一つの大きな原因は「商業的な価値が低いから」です。売れるものが菊と栗です。鯉のぼりやひな人形や子どものおもちゃと比べれば利益も小さいですし、短冊のように安定生産もできません。他の行事でも経済効果があるものは残っている、あるいは取り入れられています。昨今では「ジュンブライド」なんて言葉で6月に結婚式を勧めてきますが、ヨーロッパでは6月に晴天が多いのに対し、日本は梅雨です。バレンタインデーでチョコを送るのも日本だけです。ホワイトデーなんて日本にしかありません。ハロウィンが10月ごろに売り文句がないので取り入れられました。恵方巻もいつの間にか全国区の行事となりました。まあこういったことが経済でしょうから文句を言うつもりはありませんが…。昨今、売り文句を増やしたい時期は6月と11月だそうですね。近い内、欧米あたりからそれっぽい行事を引っ張ってくるかもしれません。(今狙われている行事の一つは3月に行われているアイルランドのグリーンデイだそうですね。) 行事はちゃんと意味や由来を知って楽しむたいものです。そういえばマイナーな節句がもう一つありまして、七草がゆを食べる由来となった1月7日の「人日の節句」があります。こちらも経済効果が高くないので名前は残っていませんが、その趣旨はすごく大切です。それは「人を大切に^{じんじつ}する日」です。人に危害を加えず人を殺さない。昔からこの日は罪人を処断しない日としていたそうですね。儲かる儲からないも大事ですが、それだけでなく倫理や道徳を深める行事も続けていきたいものです。(まあ私も調べるまで知らなかったのですが。)

うさぎとかめの話って本当？

この話は前職の会社の役員さんが話してお話です。中々に含蓄があるお話なのでご紹介します。

みなさん「うさぎとかめ」の話は知っていますよね？かけっこを始めてうさぎがお昼寝をして負けてしまうというお話です。でもこの上司はあることに気づきました。それは「そんなこと普通は起こらない」ということです。もちろんこれは「うさぎとかめが競争するわけないじゃん」という話ではありません。

まずうさぎが言った「あの山のふもとまで競争」のあの山の距離ってどのくらいでしょうか？福岡市は都市部なのであまりちょうどいい山がないですが、仮に飯森山としましょう。そしたら豊庄保育園からの距離は約8kmです。次にうさぎの足の速さですが時速15~20kmです。ではカメはというと時速1kmです。この仮定の時点でうさぎとかめの話に変な所ができました。どこがおかしいのでしょうか？続けて書いていきます。

うさぎは約30分で着きます。一方カメは8時間で着きます。ゴールまでは7時間以上差があります。では次にうさぎが負けるにはどのくらい昼寝をすればよいのでしょうか？そうです、7時間以上昼寝しないとイケないんです。これって昼寝にしては長すぎますよね？「じゃあうさぎとかめの話って完全に嘘じゃん！」と言うわけではないんですよ。もちろん「話を鵜呑みにしないで、正しいかどうか考えてみよう！」ってのも、この役員さんの言いたいことの一つですが、役員さんからは「逆にこの話を正しくするには何が必要か？」という問いが飛んできました。その時は「精一杯頑張る！」「カメが実はすごく足が速い種類の奴だった」「カメが全集中した」などを答える人がいてその役員さんは嬉しそうにため息をついていました。「根性論に汚染されるな！頭をつかいんしゃい！」と言っていました。この話の肝は「勝つための前提条件を探す」です。

ちょっと話は変わりますが、「賭博場で一番儲かるのって誰でしょうか？」。運がいい人？頭が良くて予想が上手な人？イカサマが上手な人！？いいえ違います。「賭博場というシステムを作って運営してる人」です。どんなものでもそうですが一度儲かるシステムを作れば後は集客さえすれば頑張らなくても儲かります。インターネットの動画配信サイトなどのサービスもそうですし、保険もそうです。儲かってる商売は人を集めさえすればいいものが多いです。「儲かるシステムを作れる人っていうのが、会社が喉から手が出るほど欲しい人材です。」というもお話もこの役員さんはされていました。

閑話休題して、カメが勝つためにはどうするのか？ここで豊庄保育園と飯森山の麓にある飯森神社の間の地図を見てみてください。このルートでの競争ならおそらくカメは勝てるでしょう。そうです、ルート中に川があったのです。カメの泳ぐ速度は調べてもうまくは出てこなかったのですが、時速5kmはあるでしょう。経路としては2時間ほどで着くのではないのでしょうか？そしたら昼寝の時間は1時間30分ほどとなり、お昼寝としてはあり得る時間ではないのでしょうか？うさぎの方も川を渡る手段がなかったのでその手前でお昼寝したのかもしれない。

このお話ではいくつかの教訓を教えてもらったのですが、「勝つためには場作りが大事」と言うのはあんまり考えてこなかったことでした。よく「準備8割」なんていわれるのもここに精通しているのでしょうか。スポーツなんかでは「外国人がすぐ有利なルールに変える」なんて話がありますが、これは逆を言うと「日本人はルールを操るのが下手」ともなります。

ヨーロッパでは侵略した場所を完全に自分たちの土地に作り替えてきましたが、日本は首を挿げ替えてそのまま使ったりしてます(戦国時代)。この辺はチェスと将棋の違いにも現れていますね。平和的な美德ともとれるし弱点ともとれる点です。願わくは勝ち負けなど気にせずとも生きていける世界になってほしいですが、それにはまだ数百年かけても実現できる確率は限りなく低いでしょう。そんな理想的な社会への道筋を作る礎を、築いていけたらなと思います。

